

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：アル=カーイダの活動が混乱

2013年11月8日、カタルの衛星放送局のジャジーラは、アル=カーイダのアイマン・ザワーヒリーがシリアで活動する「イラクとシャームのイスラーム国」と「ヌスラ戦線」の2派の関係について、要旨以下の通りの音声を発表したと報じた。

- * 「イラクとシリアのイスラーム国」を廃止し、「イラクのイスラーム国」として活動を続ける。「ヌスラ戦線」は独立したアル=カーイダの支部であり、アル=カーイダの総司令部に従う。
- * 「イラクのイスラーム国」はイラクを管轄する。「ヌスラ戦線」はシリアを管轄する。
- * 「イラクのイスラーム国」の指導者であるアブー・バクル・バグダーディーは、我々の指示や意見を求めることなく、しかも我々に通知することなく「イラクとシャームのイスラーム国」樹立を宣言するという過ちを犯した。「ヌスラ戦線」の指導者であるアブー・ムハンマド・ジャウラーニーは、我々の指示や意見を求めることなく、しかも我々に通知することなく「イラクとシャームのイスラーム国」を拒否し、アル=カーイダと「ヌスラ戦線」との関係を暴露したという過ちを犯した。
- * アブー・バクル・バグダーディーを1年任期で「イラクのイスラーム国」指揮官に任命する。任期終了後、「イラクのイスラーム国」のシューラー評議会は、アル=カーイダ総司令部に報告書を提出すること。それを受けて、総司令部が任期を更新するか、新たな指揮官を任命するか決定する。
- * アブー・ムハンマド・ジャウラーニーを1年任期で「ヌスラ戦線」指揮官に任命する。任期終了後、「ヌスラ戦線」のシューラー評議会は、アル=カーイダ総司令部に報告書を提出すること。それを受けて、総司令部が任期を更新するか、新たな指揮官を任命するか決定する。
- * 「イラクのイスラーム国」は、「ヌスラ戦線」に対し可能な限り人員・武器の供給や居場所の提供を行うこと。「ヌスラ戦線」は、「イラクのイスラーム国」に対し可能な限り人員・武器の供給や居場所の提供を行うこと。
- * ムスリムの血を流すことを禁ずる。これは、あるジハード団体からよそのジハード団体に移籍した者も例外ではない。例え移籍が誤りだったとしても、ムスリム、ムジャーヒドゥーンの血を流すことは禁止事項である。

評価

「イラクとシャームのイスラーム国」と「ヌスラ戦線」の2派の関係は、2013年4月に当時の「イラクのイスラーム国」の指導者アブー・バクル・バグダーディーが、「ヌスラ戦線」は「イラクのイスラーム国」の傘下であるとして、両派を統合した「イラクとシャームのイスラーム国」を樹立すると宣言して以来、陰悪な関係にあった。「ヌスラ戦線」側はこの統合を拒否、独自にザワーヒリーに忠誠表明を行い、自派は「イラクのイスラーム国」から独立したアル=カーイダの支部だと主張したのである[中東かわら版 2013 No.61,66]。そして、この両派を含むシ

リアにおける反体制武装勢力の活動は、もはや「アサド政権打倒」よりも、個別の団体ごとに権益の奪取を優先して相互に争う、解体・衰退過程にあった[中東かわら版 2013 No. 140]。こうした中、イスラーム過激派のシンパの間では、ザワーヒリーが「イラクとシャームのイスラーム国」と「ヌスラ戦線」との関係に裁定を下し、シリアで活動する武装勢力間の混乱を収束させることが期待された。これについては、2013年5月にもジャジーラが「シリアでザワーヒリーの書簡が発見された」として、同人が「イラクとシャームのイスラーム国」の樹立宣言を廃棄するよう指示したと報じていた。今般の報道も、こうした文脈でアル=カーイダの内部情報がジャジーラに漏出する形で行われた。この報道について検討すべき点は、以下の諸点である。

* 一連の報道は、アル=カーイダやザワーヒリーが情報を発信する際に用いられる正規の経路を経ずに、ジャジーラが報じた。これらについて、アル=カーイダやザワーヒリーは全く言及しておらず、その内容を肯定も否定もしていない。一方、イスラーム過激派の広報経路として利用されるインターネット上のサイトでは、一連の報道はムジャーヒドゥーン諸派の間の不和や相違を煽るものとして、引用や論評が差し控えられる傾向にある。

* 近年のザワーヒリーの活動は、イスラーム過激派の活動に承認・賞賛を与え、個々の団体の行為を「アル=カーイダの作戦」として権威付ける機能にとどまっていた。従って、同人やアル=カーイダ総司令部が、個々のイスラーム過激派団体の関係や人事について明示的に指示を出した事例は、極めて珍しいものといえる。また、現在ザワーヒリーら「アル=カーイダ総司令部」として活動している者を取り巻く環境を考えれば、各地のイスラーム過激派団体と緊密に連絡を取り、個々の団体に直接指揮・監督権を行使できるかは不明である。

* アル=カーイダ傘下団体の活動地域に既存の国家の領域を割り振った点は、サイクス・ピコ協定以来の中東の国際秩序を十字軍・シオニストによるイスラーム世界の分割とみなし、究極的にはそうした秩序の破壊を目指すアル=カーイダの思想の根幹部分と矛盾している。例えば、「イスラーム的マグリブのアル=カーイダ」は既存の国境を超越したマグリブ全域や隣接するサハラ地域で活動している。また、「アラビア半島のアル=カーイダ」は、活動地域がイエメンにほぼ限定されているものの、サウジやアメリカに対する作戦行動や扇動・脅迫を続けており、イエメンという国家の枠を超えた活動を続けている。「シャバーブ運動」は、通常ソマリアに侵攻したケニア、エチオピア、AUの部隊との戦闘に集中しているが、9月のケニアでの商業施設襲撃事件のような、国境を超える作戦や広報活動をする場合もある。また、ザワーヒリー自身も9月に発表したジハードの指針を論じる文書の中で、ジハードは十字軍・シオニストとの戦いの一環とすべきものであり、個別の政府との戦いに没入すべきではないと述べており、今般の報道内容との整合性に疑問がある。

上記を踏まえると、今般のジャジーラの報道の真偽は、ザワーヒリーらの当事者が何らかの発表をして、明示的に肯定・否定をしない限り確たる判断はできない。しかし、この報道の影響については、既に11月10日付の『ハヤート』紙が指摘したとおり、「イスラーム国」と「ヌスラ戦線」との関係を一層緊張させ、シリアやイラクでのイスラーム過激派の活動や、彼らに対する各地の支持者からの資源の供給経路を混乱させる可能性が高いと思われる。

(イスラーム過激派モニター班)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799